



新しい年の始まりに、福を招く行事として親しまれている「七福神巡り」。今回は、この七福神についてご紹介します。七福神とは、日本の民間信仰において“幸福”をもたらすとされる七柱の神さまの総称です。恵比寿（えびす）・大黒天（だいこくてん）・毘沙門天（びしゃもんてん）・弁財天（べんざいてん）・布袋尊（ぼていそん）・福祿寿（ふくろくじゅ）・寿老人（じゅうろうじん）の七神で、**それぞれが商売繁盛、金運、学問、長寿、家庭円満など、異なるご利益を授けてくれるといわれています。**

七福神巡りは、正月の縁起行事として全国で行われており、地域によっ

ては「〇〇七福神」と呼ばれる独自の巡拝コースもあります。御朱印を集めたり、色紙やお守りに七神をそろえたりと、参拝そのものを楽しむ方も多いようです。

一般的には松の内（1月7日頃まで）に参拝するのが習わしですが、年間を通してお参りできる場所も少なくありません。お参りして静かに一年の健康や平穏を祈る時間は、心を整える良い機会にもなります。

新しい年を迎えたこの時期、「今年も良い年になりますように」と願いを込めて、身近な七福神を巡ってみてはいかがでしょうか。

「紬（つむぎ）」と聞いてどんなものを思い浮かべますか？「布の種類？」「着物かな？」——そんな方も多いかもしれません。紬は、生糸に使える蚕の繭（まゆ）をほぐして真綿にし、そこから紡いだ糸を染めて織り上げた布です。**農家が養蚕を行っていた時代には、日本各地で織られていました。**茨城・栃木の結城紬、鹿児島の大島紬などが代表的な産地として知られていますが、地域ごとに技法や素材、用途が異なり、それぞれに独自の魅力があります。

した。江戸時代から伝わる紬の製法は明治・大正時代に改良され、地域の手仕事として受け継がれています。繭から糸をつむぎ、織り上げるまで、そのほとんどの工程が今も職人の手によるもの。**絹の滑らかさと紬のしっかりとした質感を併せ持ち、軽く柔らかく、他の紬にはない風合いが魅力です。**現在では職人の数が減り、「幻の紬」と呼ばれる希少な紬です。

一方、遠州の紬の特徴は、文字通り“綿”で織られていること。遠州地方は温暖な気候と豊かな水に恵まれ、かつては綿花の栽培が盛んでした。江戸時代になると、農家が副業として綿織物を手がけるようになり、やがて一大産業に発展していきます。現在では規模こそ縮小したものの、数少ない織元が昔ながらの技法とものづくりの心を守り続けています。貴重なシャトル織機と職人の手仕事を組み合わせ、時間をかけて丁寧に織り上げていくのです。**素朴な縞模様とやさしい色合いは、浜松の四季のうつろ**

いを映したもの。使うほどにやわらかさが増し、肌になじむ風合いへ変化していくそうです。

甲州大石紬と遠州綿紬、それぞれの紬には歴史や風土が織り込まれています。小物や日用品も豊富なので、身近なカタチで取り入れると、日常のなかでその土地のぬくもりを感じられるかもしれません。



●参考資料
やまなしの美技 甲州大石紬織物
https://www.pref.yamanashi.jp/shouko/kogyo/densan/oishi_01.html

有限会社ぬくもり工房
<https://nukumorikoubou.com/>

天星 Magazine

〔テンボシ マガジン〕

vol.21

Jan. 2026

笑顔と安心を第一に

元気な“みどりっ子”を育む



浜松市立新原小学校
校長
小杉 英司 さん

前号に続き、今回もテーマは地域の教育現場についてです。浜松市立新原小学校で開催された「スポーツフェスティバル」の会場を訪れ、小杉英司校長先生にお話を伺いました。

ー教育で最も大切にされている理念をお聞かせください。

校長：私が教員になって以来、一貫して大切にしているのは、保護者にも子どもにも信頼されること、そして職員も子どもも「笑顔」でいられる学校づくりです。現在は学校教育目標「**夢に向かってともに輝く みどりっ子**」に基づき、子どもたちが「気づき、考え、行動する」力を育てています。

ー子どもたちに寄り添うため、どのような支援を行っていますか。

校長：子どもたちが安心して笑顔で通える学校づくりが本校の特色です。毎月の生活アンケートをもとに、すべての子供を対象に「ハート面談」を実施しています。

また、子どもたちを「心の耕し」をはかるために、月ごとにテーマを設けた「みどりっ子ハートデー」も設けています。トラブルについては、ほんの小さな芽でも子どもが「嫌だ」と感じた時点でしっかり受け止めます。問題が大きくなる前に、その日のうちに解決をめざして丁寧に聞き取っています。

ー今年度、特に子どもたちに身につけてほしい力は何でしょうか。

校長：今の子どもたちは、少しつまづくと諦めてしまう傾向があります。そこで今年は「自己調整しながら粘り強く取り組む力」、そして「新しいことに挑戦する力」を重視しています。現状では YouTube やゲームなどに時間を費やしがちな子どもたちに、好きなことを突き詰めて「自分の武器にする」ことを奨励しています。

ー今後の展望と課題についてお聞かせください。

校長：インターネットに関するトラブルなどを単に「ダメ」と指導するのではなく、「それをしたらどうなるか」を子ども自身に考えさせ、自ら危機意識を持たせることが大切です。また、多様性の時代においては、「自分がされて嫌なことは人にしない」という従来の考え方だけでは通じにくく、相手の立場に立って考える「共感性」を育む指導が求められます。教師には、人間味を持って子どもと本気で向き合い、心でコミュニケーションを取る姿勢が不可欠だと感じています。

校長先生のお話を通じて、私が子どもの頃感じていた小学校教育の姿や指導法、タブレットを活用した学習など、すべてが進化していることに驚かされました。何より、子どもたちの「笑顔」と「安心」を第一に考え、校長先生ご自身が日々子どもたちと積極的に関わる姿勢が、学校全体の活気と信頼を育んでいるのだと実感しました。子どもたち一人ひとりの未来を見つめる熱い想いが伝わるインタビューでした。





天星製油の最新のニュースをお届けします！



編集長
カワイ

地震体験車で実際の揺れを体感し 命を守る行動を学びました



10月、天星製油本社にてBCP（事業継続計画）訓練を実施しました。今回のテーマは「地震体験車で地震の怖さを体感し、防災意識を高める」というものです。講師には浜松市浜名区の区振興課の方をお招きして、訓練を実施しました。

訓練では、家具の固定やガラスの飛散防止など、減災に向けた具体的な対策についてご説明をいただきました。地震体験車は、過去に実際に発生した地震の揺れを体験することができます。また、揺れの種類にも縦揺れや横揺れがあり、想定している身の守り方について今一度考えさせられる内容でした。

地震などの災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、「備える」ことが何よりも大切です。今回の訓練を通じて、減災への意識と、自分や家族の命を守るための準備の重要性を改めて感じました。



【天星製油・社員座談会 一現場力×チーム力で支える、エネルギー再生】

今回は、主に工場内で働く「精製課」の社員3名が集まり、日々の仕事への思いや、新工場の増築でどのような変化があったかについて、語ってもらいました。現場では、どんな人たちが、どんな思いで働いているのか。新施設とともに変わる天星製油の“いま”を探ってみます。

参加メンバー紹介

宮崎さん（40代）

工場全体の管理を担うリーダー的存在。前職は化学工場に勤務。

酒井さん（20代）

再生重油や脱水工程を担当。海外でのワーキングホリデー経験を経て再入社。

山田さん（40代）

トラック運転手から転職し、現在は精製課に所属。明るく気さくなムードメーカー的存在。



Q 仕事への責任感

宮崎さん：油を扱う会社ですので、漏油には特に敏感ですね。また、パルプの開閉ひとつでも、ミスがあれば機械を壊すことにつながる。常に気を引き締めて仕事しています。

酒井さん：品質を維持するために、管理体制をしっかり整えています。トラブルが起きたときの対応を常に想定しながら動くことが大事だと思っています。

山田さん：一つひとつ確認をして、作業を丁寧に行うよう心がけています。

Q 会社の良さ・特徴

酒井さん：理系じゃない自分でも、設備改善アイデアを出したら上司が聞き入れてくれて、実際の改善につながりました。若手でも意見を受け入れてくれます。

宮崎さん：「どうすればもっと良くなる？」と考える機会をくれますね。社長もよく構内を歩いていて、気づいた点を指摘してくれます（笑）

山田さん：私は最近、精製課に異動しましたが、分からないことも聞けば何でも教えてくれます。上司も同僚も協力的で、早く仕事が身に付いてありがたかったです。

Q 新工場になってからの変化

山田さん：気持ちに余裕ができて、いいですね！自然と笑顔が増えた気がします。

宮崎さん：とにかく効率が上がりました。新しい設備では処理時間が圧倒的に削減されたため、他の仕事も並行して行え、残業が一気に減りました。

酒井さん：残業が減ったので、仕事が終わったあとに上司と一緒にマラソンしたりして、いいリフレッシュになっています。

社長からの一言！

教える側、教わる側のほほえましい姿を見ることができました。3人とも頼りにしているので、これからも共に成長していきましょう！



【廃棄物の処理について（その1：家庭ごみ）】

前回のコラムでは、一般廃棄物と産業廃棄物の区分について記載しましたが、今回はこれらの廃棄物の処理について書いてみたいと思います。一般廃棄物と産業廃棄物では大きな違いがありますので、まず今回は一般廃棄物のうち、家庭ごみに特化して書いてみます。

一般廃棄物の代表格は、「家庭ごみ」です。家庭ごみの処理といっても、各家庭で法規定を満たす適正な処理を完結させることは到底不可能ですから、必然的に居住する自治体において処理を行うことになります。各家庭には浜松市から「分別収集カレンダー」が配布されているので、それに従い「可燃ごみ」「不燃ごみ」「プラスチック製容器包装」「ビン・缶・ペットボトル」「特定品目」に分類したうえで、収集指定日に指定のごみ集積場に排出します。この段階で、廃棄物は排出者の手を離れますので、ここから先が一般廃棄物の処理委託ということになります。委託先は、浜松市となり、各集積場を巡回しての収集運搬業務、焼却施設や埋立施設においての処分業務が市税

を投入して行われます。もっとも、実際の業務は市から委託を受けた民間業者が中心となって行うことになりますが、市は直営業務の部分はもちろん、委託業務についても統括的責任を負う中で家庭ごみの処理が行われます。

通常はこのような形で家庭ごみの処理が行われますが、例外的に家の中の片付けをして発生した大量のごみ、引っ越しに伴い発生したごみ、日曜大工で発生した残材などごみ集積場に排出できない場合もあります。このような場合、皆さんは、どのような方法でそれを片付けていますか。過去には、庭先に穴を掘って野外焼却するというケースも間々見かけましたが、法律改正によりこのような「野焼き行為」は全面禁止となりました。そのため、取り得る方法は、市の受入施設へ持ち込むということに限定されます。その際、軽トラックやバンなど、受入施設までの運搬手段があれば他人にお願いしなくても受入施設への搬入は可能ですが、それができないときは、他者において運搬を行わなければならない法律規定が「一般

廃棄物収集運搬業許可」の制度です。この場合のように、廃棄物の運搬を他者に委託するときは、居住する自治体の首長からこの許可を取得している者にもみ委託が可能となります。「分別収集カレンダー」もしくは市ホームページで許可業者を調べ、直接連絡していただき、運搬を依頼してください。当然ですが、有料となることはご承知おきください。

許可業者が受託収集した廃棄物は、集積所に排出された家庭ごみの持ち込み先と同じ処理施設に運搬され、焼却、破碎、埋立等の処分が行われます。（鎌田環境コンサルタント 鎌田俊己さん）



【環境測定、および訓練のご報告】

Key Word

☑ BCP（事業継続計画）防災訓練（10月）
地震体験車で地震体験および減災方法の確認。

☑ 漏油訓練（10月）
車載用の漏油セットを用いた対応を訓練。

☑ 交通安全KYT訓練（危険予知訓練）
会社周辺および通勤路の危険個所の共有。



漏油対応について
一連の流れを訓練しました



項目	排ガス	放流水	観測孔（水質）
		生活環境項目	
実施日	（2025.6）	（2025.8~2025.10）	（2025.6）
測定結果	○	○	○